

情報メディア学部 情報メディア学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程の編成及び特色

育成すべき人材像に対応したコンピテンシーを達成するためにメディアデザイン専攻とメディアテクノロジー専攻を設定し、コンピテンシーに関連付けた科目を体系的に編成し、適切な教育方法で授業を実施します。科目間の関連は、その内容や難易度にもとづきナンバリングで表現します。

メディアデザイン専攻は、デザインとテクノロジーとの融合に着目した、新しい時代のデジタルコンテンツを企画・創造し得る人材を育成できるようにカリキュラムを設定しています。さらに学生の指向に合わせて、複数の履修モデルを設定します。

メディアテクノロジー専攻は、テクノロジーとデザインが融合した、新しいデジタルビジネスを生み出し得る高度 IT 人材を育成できるようにカリキュラムを設定します。さらに学生の指向に合わせて、複数の履修モデルを設定します。

2. 教育内容

（1）共通教育

本学の教育目的にある「生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力を育成」という視野のもと、共通教育が定める人材像の育成を実現するために、「基礎教育科目」と「人間教育科目」から構成されるカリキュラムを定め、以下に示す科目をバランスよく学ぶことにより、本学の特色ある教養教育の目的を達成します。

①「基礎教育科目」

・「人間教育科目」および専門科目を学ぶ上で基礎となる日本語力、論理的思考力、数的処理力、プレゼンテーション力、およびコミュニケーション力を育成します。

②「人間教育科目」

・「情報とクリティカルシンキング」を中核的な科目群とし、その基盤となる「人間」「社会」「自然」の科目群により、価値ある情報を見極める力、物事を幅広い視野からとらえる力、および論理的思考力を育成します。

③「総合」

・この科目群により、主体的に行動する基盤となる体力を育成します。また、国際交流科目により、異文化の理解力、国際感覚を育成します。さらに、キャリア教育により市民としての倫理観を身につけ、社会に貢献しようとする態度を育成します。

（2）専門教育

情報メディアに関する高度な情報技術と専門知識を基盤に、情報社会の発展に貢献できる人材を育成するために、情報メディア共通基礎科目、各専攻の基礎科目と応用科目およびプロジェクト系科目を中心とした科目群でカリキュラムを構成しています。

①情報メディア共通基礎科目

・それぞれの専攻の基礎となる知識を修得し、大学への適応を図るとともに自らの適性を見極めます。

②各専攻の基礎科目

- ・各専攻で必要なデザイン技術やプログラミング技術の基礎を学びます。

③各専攻の応用科目

- ・実社会に関連付けた情報メディアに関する高度な情報技術と専門知識を学びます。

④プロジェクト系科目

- ・総合的な応用力を身につけるために配置しています。

- ・さまざまなプロジェクト学習（PBL : Project Based Learning）を経験し、個々の知識・技術を身につけることの重要性や方法を学びます。

- ・チームワークやマネジメントの重要性や方法を学びます。

⑤学部横断科目

- ・近年重要になっているヘルスリテラシやビッグデータ関連の科目も履修可能としており情報メディアの分野に留まらない幅広い分野の知識を習得します。

3. 教育方法

教育の方法については以下のように定めます。

(1) 共通教育

①基礎教育科目

- ・初年次教育科目を含む「基礎教育科目」は、1年生を対象とし、20人から40人の少人数でクラスを構成します。これにより、グループワークや少人数で行うアクティブ・ラーニングを行います。また、初年次教育科目では、タイムマネジメント、倫理、心と体の健康、クリティカルシンキングへの導入なども行います。タイムマネジメントでは、ラーニングマネジメントシステム上に本学が構築した「週ごとの時間管理システム」を活用します。

②人間教育科目

- ・「人間教育科目」は、1年生から3年生に配置されます。多人数クラスになる科目がありますが、電子教科書やクリッカーおよび本学が開発した SNS 授業ツールも活用することで、アクティブ・ラーニングによる主体的な学びの実現を目指します。

③総合科目

- ・「総合」の国際交流科目では、学生を海外に派遣します。一部の国際交流科目では、海外の学生との協調学習によりグローバル人材を育成します。キャリア教育では一部で学習者適応型 eラーニングを取り入れます。

(2) 専門教育

①専門科目

- ・座学、演習、eラーニングやPBLによる専門知識・専門技術を修得します。また、複数教員が担当する科目（チームティーチング）を充実し、学生と教員とのコミュニケーションをより円滑にします。

②自己理解

- ・カリキュラムマップやナンバリングを基に、個々の学生の履修状況を学生本人が視覚的に理解できるポートフォリオを作成します。

4. 学修成果の評価

学修成果の評価は以下の方法で行います。

①コミュニケーション力開発等の科目

・初年次教育科目などコミュニケーション力開発等の科目では、レポート、面接等で評価します。

②実技系の科目

・実技系の科目では、実技で評価します。

③知識伝達型の科目

・知識伝達型の科目では、小テスト、定期試験、課題、レポート等で評価します。

④プロジェクト系科目

・プロジェクト系の科目では問題発見、企画、プレゼンテーション、チームワーク等の能力、および成果物を評価します。

⑤ゼミナール等

・ゼミナール等では創造力・企画力・計画力・実行力等を総合的に評価します。